

比較宗教・諸宗教ブックレポート

歎異抄(1章～12章)

TTS 専門科2年

野町 真理

- 1章 *主題: 弥陀の大慈悲の先行が他力念仏門の救いの土台である。
*要約: 念仏を申そうと思いつ心が出るというその自発性が、すでに救いにとって捨てること
がないという弥陀の大慈悲から発しているという信心と念仏の弁証法が、ここに提出されている。
*キリスト教との類似点: 神の恵みの先行がキリスト教の救いの土台である。
*キリスト教との相違点: 弥陀の大慈悲
- 2章 *主題: 念仏に徹することのほかに、往生の道はない理由は、自分で自分を救えないからであ
る。
*要約: 人間が救われる唯一の道は、「ただ念仏をとる道である」と説いている。
*キリスト教との類似点: 自分で自分を救えないという人間観
*キリスト教との相違点: 念仏に徹するという点
- 3章 *主題: 悪人こそが救われる理由は、救いが本願他力によるからである。
*要約: 専修念仏門は大衆のものであり、悪人こそ必ず救われる人間である。
*キリスト教との類似点: 人の子が来たのは罪人を招くため
*キリスト教との相違点: 他力の源
- 4章 *主題: 浄土門の慈悲が大慈悲心である理由は、他力によるからである。
*要約: 仏陀の慈悲だけにたよる浄土門の「ただ念仏を申す」ということこそが、徹底した大慈悲
心というものである。流刑の身となり、僧にあらざるにあらざるという状態になる。(実際にはありえ
ない状態)。僧にあらざるにあらざるという状態を指して自らを愚禿(ぐとく)と名乗る親鸞。そこに
親鸞の思想の中心が言い表されている。
*キリスト教との類似点: 他力によらなければ慈悲深く生きられない。
*キリスト教との相違点: 主キリストによって示された神の恩寵は、高所からではない。私たちより
も低い所下って下さり、実際に共に苦しんでくださる大慈悲を持ったお方である。
- 5章 *主題: 他力浄土門の慈悲は仏陀の心にやどる慈悲である。
*要約: 、仏の力である他力によって、僧俗いずれも超えた仏陀の位置に自分を置く。そして、
そのことによって仏陀の心にやどる慈悲を自分のものとするのが可能となる。親鸞を支える<
禿>の思想とはこれである。
*キリスト教との類似点: 神の力によって、神のあわれみの心を自分のものとして生きることが可
能となる。
*キリスト教との相違点: 仏陀の他力
- 6章 *主題: 親鸞が弟子を持たない理由は、「一切の生あるものの救いは仏の力のいたすところ
であって自分をもっては不可能である」という根本原理による。
*要約: 人類への志向。<禿>の境位を支える他力。
*キリスト教との類似点: 先生と呼ばれてはならないとのキリストの言葉
*キリスト教との相違点: 仏の力。イエス様の弟子。
- 7章 *主題: 念仏とは危険の只中にあるが、何ものもまたげることのできない一すじの道である。
*要約: 危険の只中にある一筋の道とは、僧にあらざるにあらざるというあるかなきかの道である。
それは、人々の貪りや怒りの煩悩の中に生ずる、浄土を願う心である。この道はただ浄土を願う
心さえあれば見出せるし、その心を持って念仏すれば、それを真直ぐに進むことが出来る。その
時、いかなる妨げも力をふるうことはできない。

*キリスト教との類似点:狭き門、狭き道。宗教者にあらず、世を愛する者にあらず。
*キリスト教との相違点:念仏信仰、浄土⇔キリスト信仰、神の国(新しい天の都)

- 8章 *主題:念仏が行でもなく、善でもない理由は、自力を遠くはなれた他力に頼るゆえである。
*要約:念仏は他力念仏である故に、女犯そのものである結婚にも救いを与える力を持つ。これが親鸞を公の結婚へ導いた考えである。
*キリスト教との類似点:夢そのものを回復することによる人間の回復
*キリスト教との相違点:結婚は罪(女犯)ではない。性も姦淫以外の夫婦生活においては神からの祝福である。
- 9章 *主題:念仏往生の確信は、すべてをご存知である弥陀の他力の誓願に基づく。
*要約:いかなるときでも弥陀の本願のすぐ前に、その悩み、問題を持っていくことがすべての解決となる。
*キリスト教との類似点:キリスト教の救いの確信は、すべてをご存知である主の十字架による贖いに基づく。
*キリスト教との相違点:弥陀とキリストの違い
- 10章 *主題:「義なきを義とす」という他力念仏の根本は仏との結合をもたらす。
*要約:自分を超えている仏の方から自分を超えるようにはからわれて、はじめて自分を自分の力をもって超えることが不可能であると知り、義なきを義とすということを体得できる。
*キリスト教との類似点:「義なきを義とす」という信仰義認の恵みはキリストとの結合をもたらす
*キリスト教との相違点:キリストと仏
- 11章 *主題:弥陀の誓願の力が救うことを信じて念仏することと、南無阿弥陀仏という名号をとることで救う力を信じることはまったく同一のことである。
*要約:異端の根元はモラルを捨てることの出来ない人間がモラルを捨てる場所にある。
*キリスト教との類似点:グノーシス主義と放縦主義の異端を生み出した点
*キリスト教との相違点:南無阿弥陀仏という名号をとることで救う力を信じること
- 12章 *主題:学者の学者たる価値は、本願には善人・悪人とか清潔な人・けがらわしい人とかの区別がないということをも説いて聞かせるということにある。
*要約:学者の学者たる価値は、学問をつめば、ますます深く弥陀如来のほんとうの教えの理、悲願の広大なまことの趣旨をもわかって、自分のような罪深い人間では救われようがないのではないかなどと不安に思っている人に、本願には善人・悪人とか清潔な人・けがらわしい人とかの区別がないということをも説いて聞かせるということであってこそ生じる。
*キリスト教との類似点:神学する者の神学者たる価値
*キリスト教との相違点:弥陀如来と主

比較宗教・諸宗教ブックレポート

歎異抄(13章～18章)

TTS 専門科2年

野町 真理

- 13章 *主題: 本願ばかりをとにかく言う人の側にむしろ本願をたのむ心、本願を信じる心に欠けているところがある。
*要約: 人間は罪深く、修行によって往生することは不可能である。したがって、人間は本願によってはじめて救われる。この人間観を忘れると、行いすまして本願ばかりを非難する見当ちがないことも起こってくる。とはいっても、悪行をしたものをこそ救う願であるが故に、わざわざすすんで悪をつくり、往生の業とすべきであるなどというのは、間違った考えである。すすんで悪をつくり、往生をとげようとするのは、善行をつんで往生を求めようとする自力聖道門と同じ考えであって、往生が本願そのものによって定まることを、きわめることが出来ていない考えである。
*キリスト教との類似点: 福音を放縦主義、無律法主義と勘違いする人々が起こること
*キリスト教との相違点: 本願とキリスト
- 14章 *主題: 摂取して捨てずという誓願をただ頼みさえすれば、どのようなはかり難いことで罪を犯しても、また念仏申さず死んでいこうと、すみやかに往生をとげることが出来る。
*要約: 念仏一念によって、八十億劫の生死の罪を除くのは、すべて仏の力によるのであって、自分の力によるわけではないという考えをつきつめれば、念仏を重ねて一層多くの罪を消そうなどという考えなどは決して出てくるわけはなく、ただただ仏に感謝するために念仏を重ねることだけが残るほかはない。
*キリスト教との類似点: わたしは決してあなたを離れず、あなたを捨てないとのキリストの約束。
*キリスト教との相違点: 念仏一念と信仰のみ
- 15章 主題: 浄土真宗では、ただいまこの世では本願を信じ、浄土にいたってさとりをひらく。
*要約: 念仏を申そうという心が、今生のなかにおいて起こったとき、すでに浄土に住する仏の手が浄土から差し伸べられて、今生の信者は、今生をこえて彼岸の浄土にひきとられ、そこでさとりを開くのであるが、しかしその浄土にひきとる力も、さとりを開く力もすべて仏のものなのである。他力におけるさとりと、自力におけるさとりとの間には、大きな違いがある。自力にあっては絶対の彼岸という考えはない。
*キリスト教との類似点: 神からの一方的な招き
*キリスト教との相違点: 既にといまだの神の国に生きること
- 16章 主題: 廻心はおのずから然らしむる仏の側からの働きそのものによって起こる。
*要約: 自力修行の廻心の考えは、専修念仏門では使うことは出来ない。
*キリスト教との類似点: 悔い改めは御霊なる神の働きによって起こる。
*キリスト教との相違点: 仏と神
- 17章 主題: 辺地往生をとぐる人も地獄に落ちることは決してない。
*要約: 自然とは、ただ、自分の心で、はからわないということ、すべてを仏の力にまかせるということ、すなわち他力である。信心のない念仏者は、仏の本願を疑うが故に、浄土の辺境に生まれ、そこでその疑いの罪をつぐのうてのちに、真の浄土にいたり、さとりを開く。
*キリスト教との類似点: カトリックの煉獄
*キリスト教との相違点: 天の御国、神の国には辺地はない

18章 主題: 仏に供える施物の多少による仏の大小という間違いの生まれる原因は、仏の誓願を念仏からきりはなして、仏の誓願の力だけを考えようとするところにある。

*要約: 誓願と念仏を切り離すことなく、強く結びつけるその底のところに、生まれてくるのが他力念仏門であって、誓願の方にだけ眼を注ぐとき、それはすでに他力念仏門から離れていく危険を示しており、また一方、念仏の方にだけ頭を向けるとき、そこにもすでに他力念仏門から遠ざかっていく、危険が置かれている。

*キリスト教との類似点: ローマ・カトリックの免罪符や献金についての誤った考え

*キリスト教との相違点: 神の恵みと信仰

なお、18章には、歎異抄と名づけた理由も書かれている。